エクスポート

テーブルのデータを、CSVファイルまたはExcelファイルに出力する

◇機能

《エクスポート》は、1つのテーブルのデータを、CSVファイルまたはExcelファイルに出力する機能です。出力するフィールドとその並び順を選択できるほか、条件式を設定する（※）ことで、条件に合致するレコードだけを出力することもできます。

元のテーブル

売上日	商品No	単価	数量	備考
2023/01/10	101	100	4	
2023/01/10	102	150	3	
2023/01/10	103	90	-5	返品

CSVファイル（すべてのフィールド）

```
"売上日","商品No","単価","数量","備考"
"2023/01/10","101","100","4",""
"2023/01/10","102","150","3",""
"2023/01/10","103","90","-5","返品"
```

Excelファイル（フィールドと条件を指定）

売上日	商品No	数量
2023/01/10	101	4
2023/01/10	102	3

売上

※条件式は、《エクスポート》の「条件式」（「◇設定内容」参照）に入力します。条件式の書き方は、本機能説明書の「式」を参照してください。

※元のテーブルは変更されません。

◇メニュー

《分析》-《エクスポート》

※テーブルのタブでフィルター（条件式）を設定している場合は、その条件式が「条件式」に初期表示されます。

※プロジェクトツリーでテーブルを右クリックし、《エクスポート》を選択しても開くことができます。この場合、条件式は空欄です。

■ 操作ログからコマンドを修正する場合

操作ログでエクスポートのコマンドを修正すると、コマンドの内容が設定された状態で画面が開きます。

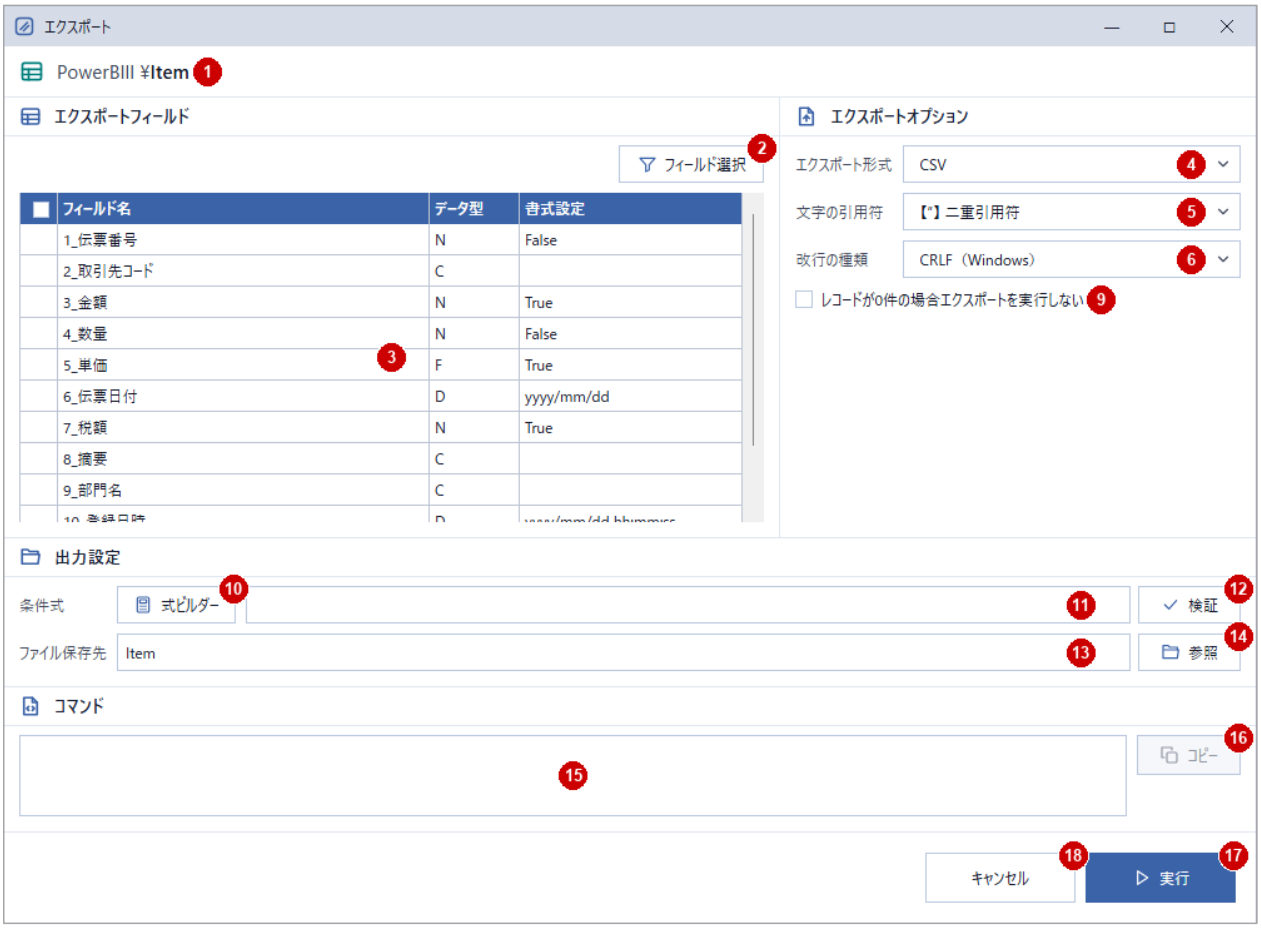
※ファイルの形式、出力するフィールド（コマンドの順）、引用符、改行、ワークシート名、条件式、保存先、オプションが、コマンドのとおりに設定されます。

※テーブルから削除されたフィールドは、選択されません。

※区切り文字は、常に「,」（カンマ）になります。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇設定内容



1. テーブル名 ：操作の対象となっているテーブルが「フォルダ名¥テーブル名」で表示されます。

2. 《フィールド選択》ボタン ：「フィールド選択」画面を開き、フィールドの検索・選択を行うことができます。

3. エクスポートフィールド（必須） ：フィールドの一覧で、出力するフィールドをクリックして選択します。
   - フィールドは、複数選択できます。
   - 選択した順に番号が表示され、その順に出力ファイルの列が並びます。
   - 見出しのチェックボックス（またはCtrl+A）のオン／オフで、すべてのフィールドの選択／解除が行えます。

4. エクスポート形式 ：出力するファイルの形式（CSV／EXCEL）を選択します。初期値はCSVです。選択した形式によって、下の設定項目が切り替わります。

5. 文字の引用符（CSV） ：CSVファイルで値を囲む文字を選択します（【"】二重引用符／【'】一重引用符／なし）。初期値は「【"】二重引用符」です。
   - 区切り文字は、常に「,」（カンマ）です。
   - 出力の例は「◇出力されるファイル」を参照してください。

6. 改行の種類（CSV） ：レコードの区切りの改行コードを選択します（CRLF（Windows）／LF（UNIX系））。初期値は「CRLF（Windows）」です。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

■「エクスポート形式」で「EXCEL」を選択した場合



7. ワークシート名（必須）：出力先のワークシートの名前を入力します。初期値はテーブル名です。
   - 31文字までです。「:」「¥」「/」「?」「*」「[」「]」は使用できません。

8. 書式を維持する：オンにすると、出力先のフォルダにある同じ名前のExcelファイルを検出し、そのファイルと同様の書式で出力します。
   - 元のファイルは上書きされます。また、通常よりも出力に時間がかかります。
   - 同じ名前のExcelファイルがない場合は、メッセージが表示され、書式を維持せずに出力されます。

9. レコードが0件の場合エクスポートを実行しない：オンにすると、出力するレコードが0件の場合（条件式に合致するレコードがない場合など）、ファイルを作成しません。
   - この場合、すでにあるファイルはそのまま残ります。メッセージは表示されず、画面が閉じます。

10. 《式ビルダー》ボタン：条件式を入力するために、式ビルダーを開いて使用できます。

11. 条件式（任意）：出力するレコードを絞り込む場合は、条件式を入力します。空欄の場合は、すべてのレコードが出力されます。
   - 入力中に、関数やフィールドの候補が表示されます（Ctrl+Spaceで候補を表示）。

12. 《検証》ボタン：条件式が正しいかどうかを確認します（Ctrl+Enter）。正しい場合は、入力欄に✓が表示されます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

13. ファイル保存先（必須）　：出力するファイルの名前を入力します。初期値はテーブル名です。
- ファイル名だけの場合は「05_export」フォルダに、「フォルダ名¥ファイル名」の場合はそのフォルダに保存されます。フォルダがない場合は作成されます。
- フルパス（例：「C:¥Data¥売上」）を入力すると、そのフォルダに保存されます。この場合、フォルダはあらかじめ作成しておく必要があります。
- 拡張子（.csv／.xlsx）は省略できます。
- ファイル名の長さは、64文字までです。記号（「-」「.」「＃」など）や全角スペースは使用できません。名前の先頭・末尾の空白、「CON」「NUL」などWindowsで使用できない名前も使用できません。
- 名前の最後の「¥」や、途中の「..」は入力できません。
- フルパスの長さは、259文字までです。
- 同じ名前のファイルがすでにある場合は、上書きしてよいかの確認メッセージが表示されます（「◇出力されるファイル」参照）。

14. 《参照》ボタン　：ファイルの保存画面を開き、保存先を選択できます。「05_export」フォルダ以外のフォルダを選択した場合は、フルパスが入力されます。

15. コマンド　：現在の設定で実行されるコマンドが表示されます（「◇操作ログ」参照）。フィールドを選択していない場合は空欄です。

16. 《コピー》ボタン　：コマンドをクリップボードにコピーします。

17. 《実行》ボタン　：実行します（Enterキー）。ファイルが作成されると、画面が閉じます。

18. 《キャンセル》ボタン　：実行せずに画面を閉じます（Escキー）。確認メッセージで「はい」を選択すると閉じます。

◇出力されるファイル

■ CSVファイル

※文字コードはUTF-8（BOM付き）です。Excelで開いても日本語が正しく表示されます。
※1行目は、フィールド名の行です。続いて、1レコードが1行で出力されます。最後の行の後には改行は入りません。
※すべての値（数値や日付も）が、「文字の引用符」で選択した文字で囲まれます。

文字の引用符	出力の例（2行目）
【"】二重引用符	"2023/01/10","103","90","-5","返品"
【'】一重引用符	'2023/01/10','103','90','-5','返品'
なし	2023/01/10,103,90,-5,返品

※「【"】二重引用符」の場合、値の中の「"」は「""」になります（例：「A"B」→「"A""B"」）。
※「【'】一重引用符」「なし」の場合、値の中の「'」「,」や改行は、そのまま出力されます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

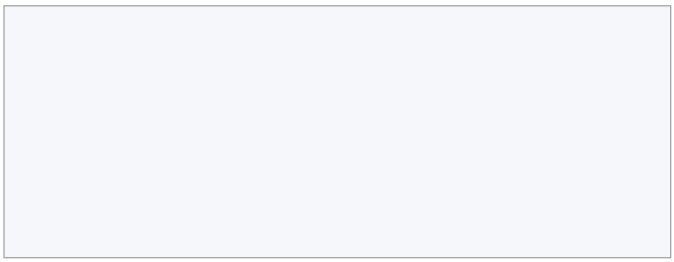
■ Excelファイル

※「ワークシート名」のシートの1行目にフィールド名、2行目から各レコードが出力されます。

※1つのファイルに出力できるのは、1,048,500レコードまでです。超える場合は、「ファイル名_1.xlsx」「ファイル名_2.xlsx」…のように複数のファイルに分けて出力されます。

※同じ名前のExcelファイルがある場合は、そのファイルに出力されます。同じ名前のシートは置き換えられ、ほかのシートはそのまま残ります。

「書式を維持する」をオンにして、同じ名前のExcelファイルがない場合は、次のメッセージが表示されます。

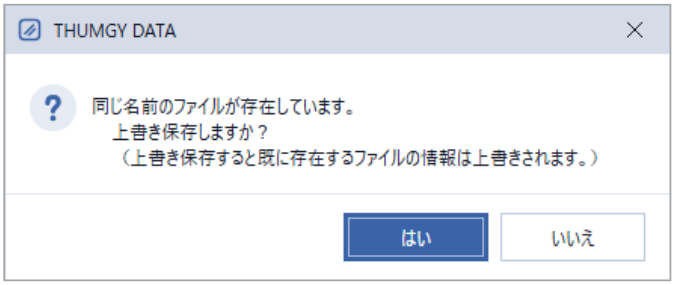


■ レコードが0件の場合

※フィールド名の行だけのファイルが作成されます。「レコードが0件の場合エクスポートを実行しない」がオンの場合は、ファイルを作成しません。

■ 同じ名前のファイルがある場合

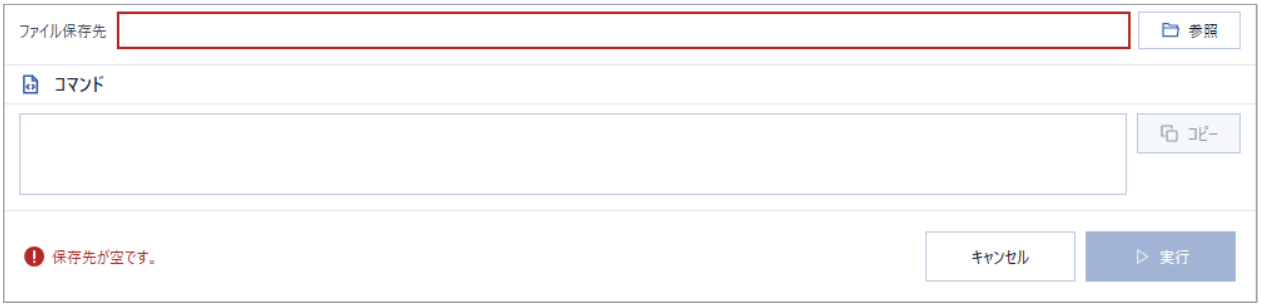
実行すると、次のメッセージが表示されます。「はい」を選択すると上書きされ、「いいえ」を選択すると、実行せずに画面に戻ります。



※出力先のExcelファイルがExcelで開かれている場合は、メッセージが表示され、出力されません。ファイルを閉じてから、もう一度実行してください。

◇入力内容に誤りがある場合

《実行》ボタンをクリックしたときに、必須項目が空欄などの誤りがあると、画面の左下にメッセージが表示され、該当する項目が赤枠で示されます。項目を修正するとメッセージは消え、《実行》ボタンが使用できるようになります。



© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇操作ログ

CSVの場合

EXPORT FIELDS フィールド1 フィールド2 ・・・（または**ALLFIELDS**） **UNICODE DELIMITED TO** "保存先" **IF** 条件式 **SEPARATOR** "," **QUALIFIER** 引用符 **BREAKLINE** 改行の種類 **SKIP IF EMPTY**

Excelの場合

EXPORT FIELDS フィールド1 フィールド2 ・・・（または**ALLFIELDS**） **EXCEL TO** "保存先" **IF** 条件式 **WORKSHEET** "ワークシート名" **FORMATON** **SKIP IF EMPTY**

各キーワードの意味は、次のとおりです。

キーワード	内容	設定内容
FIELDS [フィールド1] ・・・	出力するフィールド（出力する順）	3
ALLFIELDS	すべてのフィールドをテーブルと同じ順で出力	3
UNICODE DELIMITED	CSVファイル（UTF-8）で出力	4
EXCEL	Excelファイルで出力	4
TO "保存先"	出力するファイル（拡張子は省略可）	13
IF 条件式	出力するレコードの条件	11
SEPARATOR ","	区切り文字（常にカンマ）	—
QUALIFIER """ ／ "'" ／ NONE	【"】二重引用符／【'】一重引用符／なし	5
BREAKLINE "CRLF" ／ "LF"	改行の種類	6
WORKSHEET "名前"	出力先のワークシート名	7
FORMATON	同じ名前のExcelファイルの書式を維持	8
SKIP IF EMPTY	0件の場合はファイルを作成しない	9

※テーブルのすべてのフィールドを、テーブルと同じ並び順で選択した場合は、ALLFIELDSが記述されます。

※下線部は、「条件式」を入力した場合（IF 条件式）、「書式を維持する」をオンにした場合（FORMATON）、「レコードが0件の場合エクスポートを実行しない」をオンにした場合（SKIP IF EMPTY）に記述されます。

■ コマンドを直接記述する場合（スクリプトなど）

※キーワードは、半角の大文字で記述します（「export」「separator」のような小文字はエラーになります）。フィールド名の大文字・小文字も区別されます。

※キーワードは、上の構文の順に記述します。順序が異なるとエラーになります。「IF 条件式」は「TO "保存先"」のすぐ後に記述します。

※CSVの場合、「SEPARATOR」と「QUALIFIER」は省略できません。「BREAKLINE」を省略すると、「CRLF」になります。

※Excelの場合、「WORKSHEET」は省略できません。

※「SEPARATOR」には、「,」以外の区切り文字（「;」など）も指定できます。

※「BREAKLINE」は、"CRLF" または "LF" と大文字で指定します。

※「FORMATON」と「SKIP IF EMPTY」を両方記述する場合は、「FORMATON」を先に記述します。

例

```
EXPORT FIELDS [3_金額] [1_伝票番号] [6_伝票日付] UNICODE DELIMITED TO "Item" SEPARATOR "," QUALIFIER """ BREAKLINE "CRLF"
EXPORT ALLFIELDS UNICODE DELIMITED TO "Item" IF [3_金額] >= 100000 SEPARATOR "," QUALIFIER NONE BREAKLINE "LF" SKIP IF EMPTY
EXPORT FIELDS [1_伝票番号] [3_金額] EXCEL TO "export¥仕入明細" IF [3_金額] > 0 WORKSHEET "仕入明細" FORMATON
```


© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.